

特別展ピックアップ

さいけん 浮世絵細見 いきな女の江戸ぐらし

2011.2.5(土) ▶ 3.13(日)

泰平の世が続き、豊かさのなかで庶民の間に装いや遊びの文化が育まれた江戸時代。「いき」という独特の美意識が生まれ、とりわけ女性の着物や装飾品の分野で驚くほど洗練が進みました。

こうした流行や話題の風俗などの情報を伝える役割を果たしたのが浮世絵です。当時は見て楽しむだけでなく、現代の雑誌やポスターのように暮らしの情報源として活用されていました。

この展覧会では浮世絵に描かれた女性や風俗を手がかりに、江戸時代の女性のおしゃれや美意識を実際の着物や化粧道具、装飾品からさぐってゆきます。また、当時の暮らしや娯楽についても役者絵や風景画、さまざまな生活用品などからご紹介します。

展覧会タイトルの「細見」とは、「案内」や「手引き」を意味することばです。庶民にとって身近な存在であった浮世絵を手引きに、江戸時代の装いや暮らしの楽しみをじっくり見てみませんか。



歌川国貞《江戸名所百人美女 人形町》
1858年